

氏名	楠本知行
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4372 号
学位授与の日付	平成23年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Clinical significance of syndecan-1 and versican expression in human epithelial ovarian cancer (上皮性卵巣がんにおける syndecan-1 および versican の発現とその意義)
論文審査委員	教授 公文 裕巳 教授 柳井 広之 准教授 大橋 俊孝

学位論文内容の要旨

プロテオグリカンは腫瘍の進展に関与すると考えられている。上皮性卵巣がんにおけるシンデカン-1 およびバーシカンの発現様式、臨床病理学的因子ならびに予後との関連性を検討することを目的とした。同意を得た上皮性卵巣がん111症例に対して、免疫組織学的に検討を行った。

原発巣と転移巣では、シンデカン-1、バーシカン は上皮、間質共に同様の発現を認めた。上皮におけるシンデカン-1 の発現消失は無病生存期間の独立した予後因子となった。間質性シンデカン-1 の発現、バーシカンの発現は、無病生存期間、全生存期間ともに低かった。間質におけるシンデカン-1 とバーシカンの共発現は無病生存期間、全生存期間ともに予後不良な傾向にあった。

上皮におけるシンデカン-1 の発現消失、間質でのシンデカン-1 およびバーシカンの発現は上皮性卵巣癌の腫瘍進展に重要な役割を果たしていると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、プロテオグリカンの腫瘍進展への関与を解析するために、上皮性卵巣がんにおけるシンデカン-1 およびバーシカンの発現様式、臨床病理学的因子ならびに予後との関連性を 111 症例を対象として免疫組織化学的に検討したものである。その結果、原発巣と転移巣では、両者は上皮、間質ともに同様の発現を示し、上皮におけるシンデカン-1 の発現消失、間質でのシンデカン-1 およびバーシカンの発現が予後不良因子となることを確認した。プロテオグリカンが上皮性卵巣がんの腫瘍進展に重要な役割を果たしていることを示した価値ある業績と判断される。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。